

## 7. 農とのふれあいの場づくり

担当局課[産業経済局農林課]

消費者である市民が「食」の向こう側にある「農」を意識し農業に対する理解を深めるためには、自ら農作業や収穫などを体験することが一番の近道です。

現在、農協等が主体となって、市民農園等(13箇所)が開設されており、市民が自分自身で農作業を行うことで、季節の野菜を栽培・収穫する喜びを得ることができます。

また、市内16箇所の観光農園では、季節の果物や野菜等(りんご、ぶどう、なし、みかん、いちご、ブルーベリー、トマト、たけのこ)の収穫を体験することができます。



市民農園



果樹園

## 8. 森林レクリエーションの場の整備

担当局課[産業経済局農林課]

市街地に隣接した足立山森林公園、高蔵山森林公園、皿倉・帆柱環境林、香月市民の森は、散策や自然観察等が楽しめる、市民の身近な森林レクリエーションの場として整備しています。これらの森林を保全するとともに、除草、不良木の除去、広葉樹の植栽、遊歩道やトイレ等の施設の維持管理等を地元住民の理解と協力を得て実施しています。



足立山森林公園



高蔵山森林公園

## NPO法人 帆柱自然公園愛護会の取り組み

当会は昭和47年に設立され、帆柱自然公園を中心とする自然環境や動植物の保全・保護に努めるため、森林を「守る」活動、歴史・文化を「伝える」活動、そして自然と人間の共生の心を「育てる」活動をおこなっております。

その中の森林を「守る」活動は約15名からなる環境保全部会を中心に進めており、主な活動は国有林と市有林の544ヘクタールを区域として毎月1回のパトロールと、そこで得られる登山道等における不具合及び一般登山者からの情報をもとに、毎月2回の環境保全活動を主体としております。

平成26年度はパトロール14回延べボランティア人員127名参加、環境保全は32回延べ303名の参加となっております。

今後も帆柱自然公園の利用者(推定年間60万人)のニーズに応えるべく、環境保全活動をさらに強化し市民の健やかな心身の育成とともに環境都市づくりに寄与して行きたいと考えています。



## 9. 市民と交流する魅力ある水産業の創造

担当局課[産業経済局水産課]

市民の海洋性レクリエーションに対するニーズに応えながら、魅力ある水産業を創造していくためには、都市と漁村とのふれあい・交流の場を提供し、市民に水産業のことを身近に感じてもらう必要があります。

このため、市内各地で朝市の開催や漁業体験を行っています。さらに、若松区の「ひびき海の公園」では、プレジャーボート係留施設の「フィッシャリーナ」、海水浴場、海釣り棧橋、プロムナード護岸をはじめ、水産物直販施設の「汐入の里」などが整備され、漁業と海洋レクリエーションの拠点として、たくさんの市民に海や自然と親しんでいただいています。



フィッシャリーナ

海釣り棧橋

朝市



1. 里地里山の持続的な利用

担当局課【環境局環境科学研究所、小倉南区役所コミュニティ支援課】

小倉南区には数多くの農山村地域(里地里山)がありますが、若者が流出するなど高齢化や人口減少が進んでいます。それに伴って農地や山林が荒れ「日本のふるさと」とも言える美しい農村風景が失われようとしています。

一方、近年都市住民の間には、自然環境の中での生活やスローライフを希望する人は確実に増えてきていることから、自然とのふれあいを通じて心の豊かさを求められる場所として農山村地域が見直されています。

そこで、都市と農村の交流を促進することにより、今後も農山村地域の豊かな自然や文化を保全することにより、さらに活力ある地域とするプロジェクトを展開していくこととします。

中谷地区の取り組み

地域住民中心のワークショップの開催を通じて、都市住民との関わりを含めた、「中谷地区まちづくり構想」を、平成18年春に策定しました。

構想に基づき、地区住民と小倉南区役所・環境局が協働して様々な取り組みを行っています。

【中谷ウォーキングinみなみ】

中谷地区を実際に歩くことで、その魅力を体験してもらうとともに都市住民との交流を図っています。



中谷ウォーキング in みなみ

【環境学校】

小学生を対象に、環境保全の大切さを里地里山の現地観察や講義をとおして理解を深め、環境保全意識の高揚を図っていきます。



環境学校の様子



環境学校の様子

中谷地区の取り組み(つづき)

【竹炭づくり】

伐採した竹から竹炭を作製するための竹炭窯を設置。作成した竹炭で川の浄化活動に活用しています。



竹炭づくり

【荒廃竹林伐採～植林活動】

荒廃した竹林を伐採し、保水力の高い広葉樹の苗木の植林活動を実施しています。

【特産品開発】

中谷地区では自宅で漬物を漬けている家庭が多く、各家庭で工夫された漬物をまちおこしに役立てようと「漬物コンクール」を実施しています。



漬物コンクール

【里山ウォーキング】

地元の方の案内で、里山を歩き、鳥類や植物の観察を通して、里山の持つ自然の豊かさを体験しました。また、地元住民との交流の中で、里地や里山の保全のあり方を考えました。



里山ウォーキング

【自然環境サポーターステップアップ講座】

自然環境サポーターが中谷地区を舞台に、「里山保全講座」を実施。地元の方と交流を行いながら、地元の方々が行う植林活動に参加したり、中谷地区の魅力をPRするための「中谷ウォーキングマップ」を企画・制作しました。



植林活動(地元の方と自然環境サポーター)



マップ作成講座



中谷マップ

## 2. 里山の新しいあり方の検討

担当局課[環境局環境科学研究所、産業経済局農林課]

里山は、かつて建築用資材や薪の調達、落ち葉を腐葉土化し肥料に利用するなど、人々の生活に密着していましたが、現在はエネルギー革命等の経済社会構造の変化や、プラスチック製品の台頭などによる生活様式の変化とともに経済的な価値を失い、手入れがなされなくなっています。

里山の管理が手薄になったことに加え、繁殖力の強い竹が放置されて周囲に侵食することにより、多様な樹種で構成されていた森林が単調な生態系である竹林に変わりつつあります。

森林は、水源の涵養や土砂の流出の防備、生物多様性の維持などの様々な機能を持ち、市街地を自然災害から守る役割を果たしていますが、単調な竹林になることにより、これらの多面的な機能の低下が懸念されています。

このような里山をかつてのようによみがえらせるためには、里山を①自然にふれて楽しみ、学習する場、②多様な生物の生息地、③生産活動の場、④竹林の適切な維持管理の場として捉えることが必要です。

近年、このような里山の現状を変えるべく、市民・NPO団体等による、里山での様々な活動が見られるようになりました。今後、このような取り組みを大きく広げていくことが必要です。

本市では、平成24年度から「放置竹林対策事業」を開始し、NPO団体等への支援や、たけのこ生産竹林への再生や、竹粉碎機の無料貸し出しを通じて、竹林が適切に維持管理されるよう支援しています。

さらに、本市の特産品である「合馬たけのこ」などの林産物の生産活動を支援しています。これらの取り組みにより里山の活用振興に努めています。



里山保全活動に取り組む  
NPO団体



高品質たけのこ生産に必要な  
管理された竹林の管理

## 北九州ビオトープネットワーク研究会の取り組み

### ○ 竹による地域貢献を目指す里山保全の処方箋

荒廃する里山の影響により生物多様性や自然景観が損なわれ続ける現状において、当研究会では、2001年から若松区において里山をフィールドとした市民参加型の竹林・森林保全活動を始めました。里山に侵食する竹を伐採する保全活動を基本とし、その伐竹を私たちの生活に役立つ活用を図ることで地域に貢献することを目的としています。市民参加型の里山・竹林保全活動「平成竹取伝説」は2004年1月から毎月1回の頻度で実施し、これまで延べ111回実施、参加者数4,407人(2014年12月現在)の市民が気持ちいい汗を流し、この汗が本来の目的のみならず、人と自然、人と人の触れ合いの場を構築し、自然環境だけでなく健康増進やレクリエーション創出にも寄与してきました。

この活動の大きな特徴は、本研究会メンバーだけで活動するのではなく、活動をオープンにし、誰でも気軽に参加できるということです。関心のある個人の参加から始まり、学生のインターンシップ、国外からの研修生・留学生や地元企業のCSRの一環としての参画など多様な主体が携わり、それぞれの目的も、自然への学びから健康増進、自然や地域への貢献、伐竹の利活用研究、伐竹の建設資材製品化など多様化してきました。活動のオープンソース化と複数の目的に対応し、参画・参加の多角化を図ることが里山保全の処方箋だと考えています。

厄介者と報道されることも少なくない竹ですが、北九州市には竹が豊富にあり、多くの可能性を秘める大切な資産です。継続的に里山・竹林を保全し、竹を上手に活用することで、北九州市はさらに魅力的な都市へと成長できます。

元氣な地域の自然環境を守り続けることが、私たちが次世代へ引き継ぐ使命と言えます。



保全活動に汗を流す市民



竹を使った舗装材



### 3. 自然環境学習の場としての里地里山の活用

担当局課[環境局環境科学研究所、産業経済局農林課、建設局緑政課]

里山は身近にありながら、環境学習の場として利用されているのはわずかであるのが現状です。これは、一見すると特に美しい自然景観でもなく、珍しい動植物がいるわけでもないためであると思われる。しかし、生物の多様性という観点からみると里山は、高山などよりはるかに多様性の高い地域であると言えます。今後は、里山を学校や地域における身近な自然学習の場として利用できるように土地所有者や農林業者、また地域住民の理解と協力が得られる環境づくりに努めていきます。

また、里山に流れる河川を、ほたるが舞い、様々な生物が生息するような自然環境として保全し、さらに源流探検やリバートレッキングなど、川での体験を通じた環境学習についても里山を活用しつつ、より一層の活動支援を行っていきます。その一例として、小学校に隣接する市有林や都市公園の一部で子どもたちやNPO団体の自然体験や学習の場として利用していきます。

#### 森のがっこう事業の実施

担当局課[産業経済局農林課]

平成15年度から北九州市が八幡西区大字永犬丸に所有する市有林(約5ha)を、隣接する永犬丸西小学校と協力して、子どもたちの遊びや自然体験、学習の場として利用することを進めました。

まず、子どもたちは、森林や里山について勉強し、次に、市営林の現地の状況調査、そして、どのような利用を進めていくか、①コース、②ベンチ、③鳥、④木の4グループに分かれてワークショップ形式でアイデアを出しあいました。このワークショップには地域住民の方々の参加もいただいて、地域全体での取り組みに発展してきました。

その後、ワークショップでの意見をもとに学校と連携して施設を整備し、現在では市有林を里山として子どもたちに開放しています。



子どもたちのアイデア



永犬丸西小学校 HP

### 基本目標2

#### 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

(考え方)

本市は昭和30年代に発生した公害問題に対して、市民、企業、行政などの関係者が一体となって克服した歴史があります。

現在問題となっている生物多様性の危機に対処するためには、自然だけでなく、環境に対する広い視野を持って、行動することが期待されます。

本市には日本最大級の広さを有し、数多くの希少な生物が生息する響灘ビオトープ、本市の環境学習・活動・交流の総合拠点施設である環境ミュージアムなどの施設があり、環境に対する幅広い知識を学ぶことが出来ます。それだけでなく、多様な人々が、世界共通の課題である持続可能性の視点を持ちながら、身近な地域課題等に取り組む「持続可能な開発のための教育」(ESD)活動の全市的な普及を目指した取り組みも進めています。

特に次世代を担う幼児期からの環境学習の機会を提供しています。

このような取り組みを通じて、広い視野を持って行動できるような高い市民環境力が養われるように努めます。

